

問 学校給食の自校方式の存続は

答 統合調理場施設を視野に検討



田中榮一議員

【学校給食調理場について】

問 共同調理場建設について
教育委員会(教育委員)の見解は。

教養 教育委員の意見として、「可能な限りデメリットを縮小することに努めてほしい」「自校方式が望ましいが、予算的に難があることから村長方針に至ったことは理解する」「可能な限り自校方式水準の質を共同調理場方式でも実現してほしい」などがありました。

問 共同調理場建設委員会の
発足時期、メンバー、検討内容は。

村長 4月中～下旬ごろ、行政、議会代表、区長代表、教

育委員会代表、小中学校長、小中学校PTA代表、学識経験者など、概ね20名程度を予定しています。業者選定や検討内容に専門性がある場合など、委員会に弾力性を持たせることができるよう、必要なときに速やかに会議を招集できる体制も整えたいと考えています。

【学校と地域コミュニティについて】

問 白馬村学校給食施設検討委員会
の報告書の中に「将来的な小中学校の統廃合を視野に」という文言が入っているが、村の考え方は。

教養 長野県教育委員会では県下の小中学校の児童・生徒数が減少するに伴い、少子・人口減少社会に対応した活力ある学校環境のあり方及び支援方策が策定されております。県教委は、2035年には県下の児童・生徒数が現在の約6割まで減少すると予想しており、その場合、南小の児童数は現在の120人から72人、1クラスあた

り12人程度に減少するものとなります。現在の基準では、1学年が8人を下回れば、学級編成が複式学級の対象となります。このあたりが、統廃合の議論を開始する目安にすべきと考えています。

問 地域コミュニティ維持の
面から、学校の存在は大変重要な施設と思うが。

村長 学校は、地域と地域を結ぶコミュニティの場であり、地域住民のよりどころとなっており、併せて地域からは、学校に対する支援もいただいています。社会情勢の変化等を注視しながら、必要な時期となったら、関係機関や関係者とも相談しながら研究検討していきたいと考えています。

【電車通学時間帯について】

問 神城地区の中学生が電車
通学だと始業時間ぎりぎりになるため、家族が車で送っている現状への対応策は。



雨天や冬期には増える電車通学。

8時着で8時10分の始業に間に合わせるのは大変だと、駅員の方も言っていた

村長

電車到着から始業時間までの15分が、子どもたちにとって厳しすぎる状況であれば、改めてPTAより要望をいただいたり、学校側から状況を説明してもらいながら、そう

いった資料をよりどころに、大糸線利用促進期成同盟会など関係機関を通じて、JR東日本に対して要望していきたいと考えています。